

2025年に出たおすすめ本

福井県では、子どもの読書活動推進の一環として、乳幼児から高校生までの子どもの成長段階に応じた推奨図書を選定し、小冊子やリストの形で公開しています。

その番外編として、2025年に出版された本の中から、中学生・高校生のみなさんへおすすめしたい本を紹介します。

中学生フィクション



白さぎ

セアラ・オーン・ジュエツ/作
バーバラ・クニー/絵
石井桃子/訳
のら書店

第祖母と二人きりで暮らす人見知りの少女シルヴィアは、森で白さぎを探る若い狩人と出会います。早朝一人で森へ行き、白さぎを見つけた少女は、初めて好ましく思った若者を喜ばせたい思いと、鳥を守りたい気持ちに心が揺れます。美しい絵本。

中学生フィクション



小さな魚 新版 モンテ・カッシノ の陥落

エリック・C・ホガード/作
犬飼 和雄/訳
富山房企畫

戦時中のイタリアで、乞食をしながらその日暮らしをする12歳の孤児グイド。同じ境遇のアンナとマリオとともに修道院のあるカッシノを目指し、危険な目にあいながらも「戦争」という日常を生き抜いていきます。世界情勢が不安定な今、読んでみたい1冊です。

中学生フィクション



ぼくたちの 卒業写真

天川栄人/作
くまおり純/絵
文研出版

写真館の息子の蔵木幸也は、中学三年生。人気者の星野君に強引に誘われ、父の骨折も重なって卒業アルバムの撮影を引き受けます。個性的な同級生と向き合いながら撮影を進めるうちに、それぞれの思いを知ることになり、苦手だった人との関わりに変化が生まれます。

中学生ノンフィクション



もしも君の町が ガザだったら

高橋真樹/著
ポプラ社

2023年10月7日の襲撃に始まって、その後続く爆撃、何故ガザが今のよう事態になったのでしょうか。複雑化した要因はどこにあるのでしょうか。ガザを自分の住む町としてとらえることから始め、私たちに何ができるかを考えるパレスチナ問題の入門書です。

高校生フィクション



そして砂漠は 消える

マリー・パヴレンコ/作
河野万里子/訳
河合真維/装画・挿絵
静山社

文明も生物も絶え、大地が砂漠に飲みこまれた世界に生きている12歳の少女サマア。男の仕事である木のハンターになりたいと、密かに準備し、ハンターたちの後をつけますが、砂嵐に巻き込まれ深い穴に落ちてしまいます。ところがその穴の底で、運命をかえる出会いをすることになります。

高校生ノンフィクション



僕には鳥の 言葉がわかる

鈴木俊貴/著
小学館

著者は、高校生の頃バードウォッチングに夢中になり、鳥の研究ができる大学に進学。シジュウカラへの愛情と情熱で観察・研究を重ね、2000年以上信じられていた“人間のみが言葉を持つ”という常識を覆します。「動物言語学」創設者によるユーモアあふれる科学エッセイ。

◆図書館・学校等の方へ ここに掲載している紹介文とキャッチコピーは、図書館や学校などでの子どもの読書活動に、自由に使用することができます。POPとして本の展示に使用するなど、読書活動にご活用ください。

◆小冊子とあわせてご活用ください 「子どもの成長段階に応じた推奨図書」小冊子(幼児編、小学生編、中学生・高校生編)は、各公立図書館で配布、また、生涯学習・文化財課のホームページにPDF形式で掲載しています。

◆小冊子・推奨図書リスト掲載ホームページはこちら
福井県教育庁生涯学習・文化財課ホームページ「子どもの成長段階に応じた推奨図書(中学生・高校生対象)」
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/syoubun/dokusyo/suishoutosho-tyuukousei.html>

◆問い合わせ先
福井県生涯学習・文化財課 0776-20-0559
syoubun@pref.fukui.lg.jp